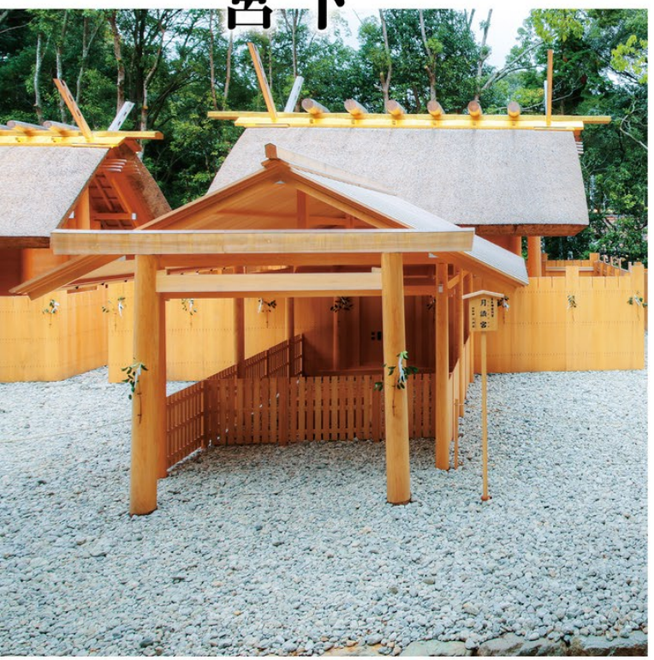
皇大神宮別宮

月讀宮以下四別宮



神宮司庁

〒516-0023 三重県伊勢市宇治館町1
電話 0596-24-1111(代)
https://www.isejingu.or.jp/

アクセスマップ

月讀宮以下四別宮付近

所在地：伊勢市中村町742-1　電話：0596-22-2801
アクセス：外宮から3.8km、内宮から1.8km
循環バス「中村町」バス停より　北へ徒歩5分
近鉄五十鈴川駅より　南へ徒歩10分

両正宮と遠隔の宮社

月讀宮以下四別宮

月讀宮・月讀荒御魂宮・伊佐奈岐宮・伊佐奈彌宮の四別宮は、内宮と外宮を結ぶ御幸道路の中間、伊勢市中村町の森に御鎮座されています。

東から順に
月讀荒御魂宮・・・②
月讀宮・・・・・・・①
伊佐奈岐宮・・・・・③
伊佐奈彌宮・・・・・④
となっており、御参拝は①から④へと順にされるのが一般的です。

伊勢の神宮

「お伊勢さん」と親しまれる伊勢の神宮は、二千年に及ぶ悠久の歴史を有し、皇室の御祖神をお祭りする宮として、全国からの崇敬を集めています。

正式名称は「神宮」であり、神宮は、皇大神宮（内宮）、豊受大神宮（外宮）の両正宮を中心として十四所の別宮、百九所の摂社・末社・所管社合わせて百二十五の宮社の総称です。これらの宮社は、広く伊勢・松阪・鳥羽・志摩の四市、度会・多気の二郡にわたってご鎮座しています。神宮では、日々、日本の平安や五穀の豊穣などをお祈りし、年間千数百回にのぼるお祭りが行われています。

豊受大神宮

皇大神宮

十四所の別宮

神宮には、皇大神宮に荒祭宮、月讀宮、月讀荒御魂宮、伊佐奈岐宮、伊佐奈彌宮、瀧原宮、瀧原竝宮、伊雑宮、風日祈宮、倭姫宮の十所、豊受大神宮に多賀宮、土宮、月夜見宮、風宮の四所、合わせて十四所の別宮があります。

別宮とは、正宮（本宮）に対する別宮（別け宮）であり、正宮につぐ重要なお宮です。古くは天皇の勅書により、後には官符をもって、宮号を宣下された神社だけが宮号を称しました。現在も、年間のさまざまなお祭りや式年遷宮は正宮に準じて行われます。

多賀宮

荒祭宮

月讀宮域内図

御幸道路側の入り口

国道23号側の入り口

月讀荒御魂宮　月讀宮　伊佐奈岐宮　伊佐奈彌宮

月讀宮以下四別宮

御祭神

月讀宮　月讀尊
月讀荒御魂宮　月讀尊荒御魂
伊佐奈岐宮　伊弉諾尊
伊佐奈彌宮　伊弉冉尊

『日本書紀』『古事記』によると、伊弉諾尊・伊弉冉尊は天より降って、国生み、神生みをされた神で、天照大神と月讀尊の御親神です。火の神を生んでみまかられた伊弉冉尊を追って黄泉の国へ行き、地上に戻られた伊弉諾尊がみそぎをされた時、左目より天照大神が、右目より月讀尊がお生まれになりました。伊弉諾尊は、姉神の天照大神に高天原を、弟神の月讀尊に夜之食国をお治めになるようご委任されました。月讀尊はその光彩が天照大神に次ぐものとされ、太陽に次ぐ月になぞらえてお讃えしたものといわれます。

月讀荒御魂宮には月讀尊の荒御魂がお祭りされています。荒御魂とは、神さまの御魂のおだやかな御姿を和御魂と申し上げるのに対して、時に臨んで格別に顕著な神威をあらわされる御魂のお働きです。

この四別宮の御神名には尊の文字が用いられていますが、これは『日本書紀』において神々の御名を述べるにあたり、「至って尊きを尊といい、その他を命という」と注記されているのに従っています。

葭原神社

神域の南端にご鎮座する内宮の末社です。五穀豊穣の神、佐佐津比古命、宇加之御玉御祖命、伊加利比売命をお祭りしています。

宿衛屋

手水舎

ご鎮座の由緒と歴史

月讀宮の創始についての詳細は不明ですが、その由緒は古く、奈良時代には月讀社と称され、平安以前に月讀宮の宮号を有していたと考えられます。延暦二十三年（八〇四）に撰述された『皇太神宮儀式帳』には「月讀宮一院」とあり、つづいて「正殿四区」と記され、一つの囲いの中に現在と同じ四柱の神がお祭りされていたと考えられ、総合して月讀宮とお呼びしていたことが分かります。

宝亀三年（七七二）、月讀尊の神威を畏み、荒祭宮に準じて毎年九月に幣馬が奉られることになり、月讀尊荒御魂、伊弉諾尊、伊弉冉尊が官社に列せられました。

仁寿三年（八五三）、大風洪水により月讀宮と伊佐奈岐社が流され、斉衡二年（八五五）に現在地に遷座されました。それ以前は諸説ありますが、この地の近く、もう少し五十鈴川に近いところにお祭りされていたと考えられています。

貞観九年（八六七）の『日本三代実録』には、伊佐奈岐社が独立して宮号宣下され、殿舎が増作されたという記録があります。延長五年（九二七）に上奏された『延喜式』には、伊佐奈岐宮・伊佐奈彌社が瑞垣を巡らした一院をなし、月讀宮・月讀尊荒御魂社で一院をなしていたとあり、月讀尊荒御魂社と伊佐奈彌社はそれぞれ「小殿」と呼ばれていたようです。

明治六年に現在のように四院それぞれ一院をなす形となりました。

恒例のお祭り

延喜大神宮式に、この四所別宮に対して幣帛を「祈年、月次、神嘗の御祭に供えよ」とあるのをそのはじめとして、今も祈年祭、月次祭、神嘗祭、新嘗祭には皇室から幣帛が奉られます。

年中の恒例祭及び臨時祭には正宮に次いで丁重にお祭りが奉仕されています。

月次祭　奉幣（12月）

1月1日　歳旦祭
1月3日　元始祭
2月11日　建国記念祭
2月18日　祈年祭　午前8時　大御饌　午前10時　奉幣
2月23日　天長祭
5月14日　風日祈祭
6月18日　月次祭　午後10時　由貴夕大御饌
19日　午前2時　由貴朝大御饌　午前10時　奉幣
8月4日　風日祈祭
10月18日　神嘗祭　午後10時　由貴夕大御饌　午前2時　由貴朝大御饌　午前10時　奉幣
19日
11月24日　新嘗祭　午前8時　大御饌　午前10時　奉幣
12月18日　月次祭　午後10時　由貴夕大御饌
19日　午前2時　由貴朝大御饌　午前10時　奉幣

式年遷宮

神宮では二十年に一度、殿舎や御装束神宝を新たにして大御神にお遷りを願う神宮式年遷宮を行います。一千三百年にわたって続けられてきた神宮最大のお祭りです。『太神宮諸雑事記』によると、天平十九年（七四七）に第四回内宮遷宮が斎行され、同年十二月に「諸別宮遷し奉りて二十年に一度の御遷宮、長例の宣旨了んぬ」との記載があり、奈良時代には現在と同じように、別宮も式年遷宮が行われていました。

第六十二回神宮式年遷宮は平成二十五年秋、両正宮とそれぞれの第一別宮で行われ、月讀宮以下四所別宮でも、平成二十六年秋に式年遷宮が行われました。現在の殿舎は南側の御敷地にあり、北側は古殿地となっています。

月讀宮遷宮祭　奉幣（平成26年）